

基地

瑞慶覧功氏 外来機の暫定配備による騒音被害は。大浜浩志環境部長 F22戦闘機が訓練を開始した6月4日前後1週間で比較したところ、県が把握する15

測定局全てで上昇した。最も高い砂辺局で67・7デシベルから訓練開始後72・6デシベルに上昇した。1日当たりの騒音発生回数も全15局で増加し、最も多かった砂辺局は55回から91回に増加した。

サンゴ調査、立ち入りも

米軍普天間飛行場移設に伴う名護市辺野古の新基地建設を巡り、最初に土砂投入が予定される区域近くに大型サンゴの存在が指摘されている件について、県が立ち入り調査を国に申請する考えであることが分かった。20日の県議会代表質問で謝花喜一郎副知事が明らかにした。赤嶺昇氏(おき

なわ)の代表質問に答弁した。謝花副知事は「現地の状況を確認するため、立ち入り調査も求めたい」と述べた。埋め立て予定区域に生息する海草について池田竹州知事公室長は「移植せず土砂を投入するのは環境保全上問題がある。対応を検討する」と述べた。西銘純恵氏(共産)に答えた。